

毎年、秋になると読書の秋、読書週間、図書館総合展と賑やかにになります。本紙ライブラリーニュースも、2007年11月号外を復刊し、15号を皆さまにお届けします。日本列島が大きく揺れ、多くの被災・被害が発生しました。地震・津波・原発事故からの復旧・復興が待たれます。特に原発事故による影響は現在進行形でもあります。図書館に出来たこと何なのか、出来なかったこと何なのか。図書館・図書館関係者の方々と一緒に、図書館の使命・役割、機能を棚卸ししてみたい時期かも知れません。社会に深く関わる図書館は、各館種での説明責任と透明性を担保し、文化資源の蓄積、整理、提供のプロフェッショナルとしてアクション・プランを策定しなければなりません。(吉)

おはようございます

図書館で仕事をする人たちの現場からのレポートを連続掲載します。
様々な経歴・経験から、図書館に係るアイデア・ヒントと日々の積み重ねを紹介します。

アーカイブズの仕事

「学習院アーカイブズ」という、学校の歩みを示す資料を収集・整理・保存し、閲覧に供する部署に勤務している。所蔵する資料は、明治期から近年に至る事務文書をはじめ学生徒の作品、教員の個人資料、写真、もの史料や磁気媒体など多種多様である。そうした資料は学内の各部署から移管され、あるいは教職員・卒業生やその遺族などから寄贈されて集まってくる。学校法人学習院は目白・戸山・四谷の三校地に大学から幼稚園までの八校を経営しており、各学校にどのような資料があるかを把握することも大切な仕事となる。

明治期から昭和戦前にかけての教務関係文書を繙くと、学習院や華族女学校に在職していた嘉納治五郎・西田幾多郎・津田梅子らの担当教員や時数がわかる。白樺派の作家たちや三島由紀夫が、誰に何を教わったかも推定ができる。大正元年の「庶務課日誌」には、明治天皇大喪のあった9月13日に起きた乃木希典院長の自刃が生々しく記されている。学生寮の献立表や入学案内ポスター、学生生活を切り取ったスナップ写真なども貴重な歴史資料であるが、もともとは日常の業務や生活の中で生まれた平凡な記録だった。

アーカイブズの役割を果たす部署をもたない学校では、学校の歴史資料は図書館に保管されることがある。図書に比べて整理・保存や公開に手間がかかるため、そうした資料は十分に活用されていない場合も多い。しかし扱いの面倒な一見小汚い資料にこそ、学校の歴史と伝統が宿ることを日々の仕事の中で実感している。筆者の職場は本年4月に開設されたばかりで体制は何も整っていないが、すでに年間約140件の閲覧や問い合わせがあり、レファレンス対応の中で新たな見識を得る機会も多い。なによりも目的のなかった資料を提供できたときの、閲覧者の嬉しそうな表情は筆者にとっても格別で、この仕事をしていて良かったと思えばと思うのである。

(学習院アーカイブズ)



桑尾 光太郎

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

MARUZEN LIBRARY NEWS

第15号(季刊・通号166号) 2011年11月9日発行

発行 / 丸善株式会社
 発行人 / 土方裕之
 住所 / 〒140-0002 東京都品川区東品川4-13-14 グラスキューブ品川
 電話 / 03-6367-6063 <http://www.maruzen.co.jp/>
 印刷所 / 三美印刷株式会社

丸善株式会社 教育・学術事業 営業拠点は
<http://www.maruzen.co.jp/corp/bases/index.html> をご覧下さい
 本誌に対するお問合せ、お申込みは、お届け先変更・中止は
 E-mail: librarynews@maruzen.co.jp へどうぞ

プライバシーマーク取得 10540023 (03)
 一級建築士事務所 東京都知事登録 第29143号
 建設業許可番号 国土交通大臣許可 (特-19) 第13308号
 一般派遣者事業所 般13-303047、特13-306315
 ISO 認可取得 ISO9001JSAQ1556、ISO14001JSAE479



丸善ライブラリーニュース 第15号

巻頭	大震災のなかの図書館	東北大学附属図書館長 野家 啓一
	図書館員が東日本大震災からの復興に向けてできること	東北大学附属図書館 米澤 誠
	災害の被害から効果的に回復するには	英国ノールフォーク公文書館 ペーパーコンサバター 内田 夕貴
	高等教育改革の機軸としての「アカデミック・リンク」序論	千葉大学附属図書館長 アカデミック・リンク・センター長 竹内比呂也
	慶應義塾大学電子学術書利用実験プロジェクト 実験を通じてわかってきたこと	慶應義塾大学 島田 貴史
	教育現場 学校図書館の日常から	明星学苑 明星中学高等学校 東京大学 大学院教育研究科 専修大学 文学部 鬼丸 晴美 今井 福司 野口 武悟
	図書館情報学文献渉猟 (下) 学術情報流通の変貌への対応	鶴見大学図書館事務長 長谷川豊祐
	アーカイブズの仕事	学習院アーカイブズ 桑尾光太郎

表紙 = 東北大学所属図書館創立100周年記念式典・講演会 (2011年10月15日)

先日朝刊一面に「アマゾン、年内にも電子書籍」の記事。大手出版社と交渉が詰めているという。電子書籍のことが世間で騒がれて久しいが、今一つ動きが鈍いと感じていた。車内で周りを見渡すと、スマホでマンガを読んでいる若者は多く見かけるが、これで普及が本格化するだろうか…? (藤)

先日アップルのスティーブ・ジョブズ氏が亡くなりました。「学ぶ力」が「能動的である力」だとするならば、妥協することなくヒット商品を生み出してきた氏はその力がずば抜けていたということでしょう。学びに新たなプロセスを提供した彼の死に改めて思います。学ぶこと、能動的であることの大切さを。(M)

大学生4人が相談をしている。「来週うちの班発表担当だよ」「スケジュールをたてないと。授業終わったらお弁当持ってラーコモ集合!」「私空き時間に本読みながら場所取りするね。ホワイトボード空いているかな」ラーニング・commonsは学生たちにとって、授業外作戦会議の基地にもなってくれそうだ。(帯)

ラーニング・commonsは「もはやブーム」であるとのある講演での発言があった。導入大学では、「標準」ではなく「独自」の構築が評価されている。運営は図書館と教職員との連携が運営の条件と理解される。また様々な課題を有しつつも「図書館のチャンス!」という纏めが印象的であった。(F・I)